

「健康・ふくし祭 in むらた」における「模擬薬局ブース」出展に関わった方々の感想

◆NPO法人ふあるま・ねっと・みやぎ理事・実行委員 庄子郁子

健康・ふくし祭 in むらたに準備段階から参加させていただきました。地域の薬局と村田町のふくし担当の方と、どう連携してイベントを成功させていくかが課題でした。

事前に村田町の薬局を回り、今回の趣旨を説明して歩きました。賛同はされても一緒に参加という行動に移そうとするところは1店舗のみでした。また、ふくし担当の方からも薬局の連携状態を聞かれて返答に困りました。

当日、村田町のアイン薬局鈴木さんが参加し、診療所や包括支援センター、保健師の方々と交流できたことが、ふあるまねっとみやぎとして役割が果たせたと思っております。これを機会により連携が深まることを望みます。また、町民の多くの方々が薬局のブースに寄ってくれ、熱心に薬局の積極的な利用法を学んでいました。

”セルフメディケーション”の言葉自体もまだ認知度が低く、啓蒙活動が必要と感じました。健康サポート薬局の形が厚生労働省より提言されました。改めて、国民にとって必要とされる薬局の形を伝えることの必要性を感じました。

◆NPO法人ふあるま・ねっと・みやぎ賛助会員「有限会社 サンライフコミュニティー」市名坂薬局薬剤師 田村享子

前回の設立10周年記念イベントに引き続き、ふあるま・ねっと・みやぎの村田町でのイベントに参加させていただき、ありがとうございます。また皆さまと一緒できると思うと嬉しさと緊張で、本番までそわそわしていました。

こちらの都合上、当日のみの参加ということで、事前の準備にはほとんど関われなくて大変申し訳ありませんでした。

さて、11月15日は雨が上がったばかりの足元もおぼつかない中ではありましたが、村田町町民全員が参加しているのではないかと錯覚する位、村田町民体育館は大盛況でした。

ふあるま・ねっと・みやぎのブースも入り口近くで場所が良かったせいか、10時半からスタートにもかかわらず、10時からどんどん町民の方が来ていただきました。

ふと周りを見ると、同時に10人もブースに来た時があったように思います。

私たち職員は模擬薬局として、実習生は測定コーナーとアンケート係として参加しました。

普段、私たちが調剤薬局で行っている業務を薬剤師役と患者役でロールプレイして分かりやすく説明させていただきました。また、健康相談も多数頂きました。実習生も最初は緊張してかたくなっていましたが、次第になれてきて笑顔で対応していました。大変よい経験が出来たと感激していました。

◆ 地域から参加したアイン薬局村田店 薬剤師 鈴木 聡

今回のイベントを終え、まず感じたことは調剤薬局の中だけでは地域の方々に、調剤薬局、薬剤師の役割を啓蒙していくのは限界があるということでした。ふあるま・ねっと・みやぎのイベントに参加して2年目になりますが、一步こうして外に出て、地域の方の生の声に耳を傾けると、自分の服用している薬はもちろん、薬剤師の業務についても何もわかっていない方が沢山いらっしゃることに驚いてしまいます。

最近の薬局・薬剤師を取り巻く環境は決してよろこばしいものではありません。薬剤師の存在意義すらを疑問に思う話もあるほどです。

ふあるま・ねっと・みやぎの皆さんと一緒に参加させていただいた地道な活動によって、まずは地元から、そして地方へと少しずつ私たち薬剤師について理解していただいているのだと、肌で感じてきました。

薬剤師として、これからも信頼を損なうことなく患者さまや地域の方々のために、一緒に活動していきたいと感じております。また、機会がありましたら、是非お声がけいただきたいと思います。

本当に貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

◆ 村田町健康福祉課(保健センターおよび地域包括支援センター)職員の方々からの感想および反省点

<ふくし祭全体として>

- ・各コーナーは正味 2 時間の活動であり、来場者の多くは福引を楽しみにしている。そのため、福引が始まる 10 時 30 分から 1 時間ほどは人が多いが、11 時 30 分を過ぎると会場にいるのはほぼスタッフのみとなってしまう。
- ・準備に多くの時間がかかっているものの、住民に伝えるメッセージが少ない。
- ・アトラクション・福祉・健康・飲食やバサー・物産の販売などコーナーの数も多く、目的があいまい。目的を明確にして、意味のあるイベントにしていく必要がある。

<セルフ Medikation 薬局(模擬)について>

- ・参加の方法について、話しを頂いた段階から地域包括支援センターを交えた話し合いを行う必要があった。地域ケアシステム構築は町としての課題でもあるので、(ふくし祭への参加ではなく)違う形で事業を行うことができたかもしれない。
- ・打合せを通して、地域薬局の現状や今後のあり方、薬剤師の役割を学ぶことができた。
- ・模擬薬局体験、禁煙チャレンジャー、測定のどこから始めてもよいとしていたが、いずれも測定を行う必要があり、流れが滞った。
- ・測定の記録用紙に単位や判定結果の記載がなかったため、手書きする部分が多く、記入に時間がかかった。

- ・スタッフ間の役割分担が十分決まっておらず、当日の役割が一人ひとりに伝わっていなかったように感じた。何をすればいいのか戸惑っているスタッフの姿も見られた。
- ・全体の流れを見て、勧誘や測定補助、誘導など自主的に動けると良かった。
- ・ふくし祭の雰囲気や当日のスケジュール、来場者の流れの説明が不足していたため、イメージが作りにくかったと思う。
- ・常に流れているBGMやステージ発表の音などが大きく、模擬薬局のやり取りや相談をするにはうるさかった。
- ・「健康／保健コーナー」では、例年骨密度測定を行っていたため、今年度はできないのかとの質問があった。

◆薬学実習生の感想

◎東北薬科大学 5年 （市名坂薬局）

薬剤師の地域活動を学ぶため、今回健康ふくし祭へ参加させて頂いた。私は主に禁煙チャレンジャー体験のコーナーをメインで担当したのですが、スモーカーライザーの使い方を自分では理解していてもお客さんに理解してもらうように説明することが本当に難しかったです。若い人とお年寄りでは理解度も違い、お年寄りだと耳の遠い方が多いため、説明の仕方や声の大きさなど、状況に応じた使い分けができなければならないと感じることができた。また、説明をする際に最初は緊張してしまい、患者さんと目線の高さを合わせるということを忘れてしまったのですが、すぐに気づいてしゃがんで患者さんと目線の高さを合わせました。すると、患者さんの声がよく聞こえ、コミュニケーションがとりやすくなったと私は感じたので、薬剤師になって働くときはもちろんですが、日頃から話す相手と目線の高さを合わせていこうと思っています。今回スモーカーライザーの使い方を説明するという事で、タバコの害について詳しく勉強したので、将来この知識を役立てていけたらいいなと思っています。

セルフメディケーション薬局(模擬)のコーナーでは、模擬処方箋を持ってきた患者さん役をして、薬剤師さんに服薬指導してもらったことで、どんなことに注意して服薬指導をしているかということや、患者さんはどういう気持ちで服薬指導を受けているかといった、薬剤師側、患者側の両方ことはとても勉強になった。

戸田先生の講話では、どのように話せば人に分かりやすいのかということをお私に学べたし、ブルーベリーが本当に目に良いのか等、興味のわく話をして頂き、とても勉強になりました。

患者さんに質問されたときに知識がないと答えることができないので、今回、健康食品の話聞くことができ本当に良かったです。

地域活動では、お客さんに薬のこと、サプリのことを知ってもらえたとし、私も沢山のことを学ぶことができました。機会があればまた参加させてもらいたいです。

このようなイベントに参加させて頂きありがとうございました。

◎東北薬科大学 5年（市名坂薬局）

今回、薬局実習の一環として「健康ふくし祭 in むらた」の薬局ブースに参加させていただきました。薬局ブースでは、セルフメディケーション薬局について知っていただくため、模擬薬局の体験やOTC医薬品の購入の体験、禁煙治療で使用するスモーカーライザーの体験、薬剤師による講話、血圧や体重・体脂肪糖の測定、健康食品に関するクイズが行われていました。今回私はブースへの呼び込みを担当したのですが、「セルフメディケーション」や「OTC医薬品」という言葉自体を知らない人が多くいる印象を強く受けました。

また、「薬局＝処方せんがないと行かないところ」というイメージを持っている方も多く、まだまだ薬局が地域の人々にとって身近な存在ではないのだなと感じました。

現在、国は医療費削減のためセルフメディケーションを進めていますが、その言葉自体を知らない人が多いのが現状です。また、適切なセルフメディケーションが行われるためには、薬や健康食品について正しい知識を持っていなければなりません。ネットの情報を見ると間違った情報も多く広められており、正しい情報を身につけるのは容易ではないと思います。だからこそ、薬や健康を専門に扱う薬剤師が今回のように地域のイベントに参加したり、講演をおこなったりすることで、地域の人々に正しい薬や健康食品の情報提供していくことは薬局・薬剤師の重要な社会的役割のひとつだと思います。

今回の実習を終えて、私も薬局薬剤師になったら、このような地域イベントに積極的に参加していきたいなと思いました。そして、地域に密着して地域の方々の健康をサポートとする薬剤師になりたいなと思いました。

今回のイベントに参加させていただき、薬局薬剤師が地域にどう貢献しているのかをいろいろ知ることが出来、充実した薬局実習となりました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

◎東北薬科大学 5年（市名坂薬局）

今回はこれだけ大きな地域社会活動に参加させていただき、大変勉強になりました。白衣を着て立っていると、お客さんは薬剤師だと思って話しかけてこられるので、ちゃんと正確に答えようと気持ちを切り替えることが出来たのでよい経験になった。お客さんと話していく中で、若い方もいれば、ご高齢の方もいて、どうすれば自分の説明を伝えることができるのかを考えることができた。薬局でどんなことをやっているかということをよく知っている方もいたが、中には薬局は処方せんがなければ入っていけない所という認識を持っている人がいて、そういう人たちに薬局のことをきちんと知っていただくために、こういう社会活動をおこなうことは凄く重要なことであると感じた。また、そういう方に薬局とはどういうところかということや、セルフメディケーションというのは何なのかを説明して理解してもらうこと経験し、自分のなかでそれが嬉しいと感じている自分を知ることができたということが一番の発見でした。この経験をこれからの進路や目標に役立てられるようにしていきたい。

セルフメディケーション薬局では、模擬処方せんを使っのロールプレイの患者役と、スモーカー

ライザーでの呼気中の CO 濃度測定を担当させていただきました。ロールプレイでは本物の薬剤師さんの指導が一番近いところで見ることができて、言葉の言い回しや視線、話し方などを知ることができ、凄く勉強になった。スモーカーライザーでの測定では、ご高齢の方への説明や周りの音が大きい中での説明の難しさを知ることができた。その中で体験していただいているお客さんに理解してもらうことができたのは良かった。また、喫煙者の方への喫煙による身体への影響や禁煙へのサポートの方法などを伝えることができ、それで禁煙しようとなってくれるお客さんはいなかったが、もし禁煙したいと思ったならばこういう方法もあるということをお教えることができたので、何かのきっかけになることができたなら良いと思った。

最後に、このような大きなイベントに呼んでいただき本当にありがとうございました。

この経験をこれからの進路などに役立てていきたいです。

◎東北薬科大学 5年（スマイル薬局）

村田町での啓発・交流活動に参加させていただき、今まで経験させて頂いていた活動とは、また違った雰囲気があり良い経験をさせていただきました。私は主に疑義照会や禁煙・栄養指導、お薬手帳の活用など薬剤師が行っている業務について実演するときの患者役や呼び込みなどを行っていました。その中で、一般の方々からの疑問もあり、その受け答えや具体的にどうアドバイスすべきか詳しく学ぶことができました。イベントの感想としては、地域の薬剤師がこういったイベントへ参加するといったことが本人にも、また地域の人にとっても大切であり、かかりつけ薬剤師につながってくるのだと感じました。イベントの参加者が来てよかった、今後はより薬剤師・薬局をもっと有効に活用していいのだと思っていただくためにも、スキルを磨き積極的に自分からも活動を広めていけるようになっていきたいです。